

## ひとりっ子の対人的能力の形成過程

～「昼間のきょうだい＝学童保育」における観察を通して～

静岡大 教育 ○ 渡辺和歌子 金田 利子

【目的】対人的能力の形成に及ぼすきょうだい関係の影響については、すでに様々な研究がなされている。そこで、本研究では子ども数の急激な減少、平均きょうだい数2人という現状をふまえ、失われつつあるきょうだいの「ナナメ関係」をいかに社会的に保障していくかという視点から人為的な「ナナメ関係」への取り組みとしての学童保育に着目し、そこで生活するひとりっ子の対人的行動を観察する中で、子どもの対人的能力の形成過程を分析することを通して、対人的能力と生活・教育の関係を明らかにすることを目的とした。

【方法】静岡県焼津市にある学童保育Nクラブにて、ひとりっ子の対象児1名（小2女）を選定し、1991年11月～12月、学童保育での生活をVTR録画した。後に、VTRを再生し対象児の対人的行動をエピソード毎に分析しながら、対人的場面における行動の変容を考察した。

【結果】ひとりっ子を対象とした観察の中から次のような結果がえられた。  
 <年下の子どもに対する行動> 観察当初はただ自分の気持ちを押しつけるだけであったが、徐々に相手の気持ちを考えての、いたわりの行動がみられるようになった。  
 <年上の子どもに対する行動> 始めは圧力に負け言いなりになってしまうこともあったが次第に自己主張したり、アドバイスを素直にきくなどの行動がみられた。  
 以上の結果から、家庭内で子ども同士の関わりの希薄な子どもにとって学童保育での異年齢の児童との生活は、対人的能力を形成していく上で影響を与え得る場であるといえる。